鹿児島県図書館協会 視察研修報告書

南九州市立川辺図書室 大薗 香

令和5年11月8日（水）14:00～17:00
沖縄県立図書館

① 図書館運営について

・ 2018年12月15日オープン（R3年度 100万人 R5年度200万人突破予定）
・ 3階⇒児童書 4階⇒一般書 5階⇒郷土資料 6階⇒事務所・研修所
・ 蔵書冊数の3分の1以上が郷土資料。郷土資料は，3冊購入（貸出用・閲覧用・保管用）している。5階が全て郷土資料となっており，郷土資料室では受付で荷物を預け，持ち込みができないよう徹底していた。

② 電子書籍の利用方法，利用数

・「KinoDen」を使用。2021年度から活用している。
・ 資料費1冊8000円程度⇒買取り型になる。コロナ交付金や国の交付金を活用。
・ 電子書籍は，同時に読むことができ，督促が無いというメリットがある。しかし，1冊あたりの価格が高額になるので，予算確保が難しい。

③ YA世代に向けた取組や学校図書館支援・子ども読書支援課題解決ブックリスト（選書等について）

・ 学校図書館 ⇒ 司書資格保有の学校事務補として勤務。県立図書館職員が学校訪問を行うことができる等を公文でお知らせしている。
※ 依頼があれば訪問する。→ 図書館だよりや掲示物などの相談あり。
・ 県立図書館内に，読書推進資料コーナーに学校図書館コーナーを設置。学校司書の方が，参考になるような本（選書の仕方など）をそろえている。また，教科書を寄贈でいただき，いつでも誰でも閲覧できるようにしている。（学校司書や図書館職員も教育課程が分かり，選書の参考にできると思う）
・ 子ども読書支援 ⇒ ティーンズコーナー（ライトノベルなども配架）に，自殺予防や悩みに関する本と一緒に各団体の関連パンフレットがあり，利用者が相談先を自分で見つけられるように工夫されていた。
・ 課題解決ブックリスト ⇒ 司書が選書。毎朝ミーティングの後，職員全員で配架や整架に取り組んでいる。この活動により，職員も多くの書籍を知ることが出来ている。日頃からの学びを活かし選書している。また，パスファインダーを作成し，利用者の方に提供できるようにしていた。

【選書の仕方】 ・ テーマを決める。 → ブックリスト（選書） → 全員で見る（読む）

④ ボランティア活動について

・ 団体（3～4団体）⇒ 読み聞かせ
・ 国際交流推進課 ⇒ 英語絵本の読み聞かせ
※ 読み聞かせに関しては，職員はあまりせず，団体が行っている。
・ その他ボランティア ⇒ 書架整理・装備・修理

⑤ 危機管理

・ 防犯カメラ設置（館内数か所），「防犯カメラ作動中」のPOPを掲示。
・ 各階の受付やレファレンス場所に，防犯ブザー設置
・ 不審者には，2～3人で対応（1人では対応しない）
・ 警備会社の方に研修をしてもらう。

⑥ 空とぶ図書館（移動図書館車の運営について）

【空とぶ図書館】

・ 各教育委員会と連携し，移動図書館を開催。離島では宿泊し，本の貸出だけではなく講演会や工作コーナー，ミニ展示など実施。

【協力貸出サービス】

・ 離島や北部地域の方に，拠点施設（公民館や学校図書館）を通じて県立図書館の本を貸し出すサービス。発送は週１回（送料は県立図書館が負担）。リクエストは年5冊まで可能。

【一括貸出サービス】

・ 県内の公共図書館・学校・施設・団体などに，６ ヶ月～１ 年間（地域により貸出期間が違う）貸出。医療機関や少年院，刑務所も貸出対象団体としている。各団体，最大 500 冊まで本を借りることが出来る。また，一括貸出セットのリストを作成しており，その中から選んで借りることもできる。

※ 離島などの遠隔地の方も含め，全ての県民にサービスが出来るように取り組んでいた。

※ 各教育機関や公共機関等と連携している。

＜所感＞

沖縄県立図書館では，事前質問に対し，とても丁寧に説明をしてくださった。中でも，YA 世代に向けた取組や学校図書館支援，空とぶ図書館の取組が強く印象に残った。YA 世代に向けた取組では，展示の本と一緒に不登校・フリースクール・自殺予防等のチラシが置いてあり，人の目を気にすることなく，気軽にチラシを取れるよう工夫されていた。また，学校図書館や学校支援のコーナーでは，学校司書の参考になるように，展示・掲示に関する本，選書に関する本などを多数取り揃えていた。学校支援として，教科書を教育委員会から寄贈していただき，先生方がいつでも読めるようにコーナーを設置し，教科書を見ることができて良いと感じた。これらの取組は，教育課程を知ることに繋がるとともに，各教科に関する資料を取り揃えることができ，学校図書館や図書館が学習・情報センターとしての機能を果たすことが出来るのではないかと感じた。

「空とぶ図書館」は，各機関と連携を取り，全ての県民にサービスができるよう工夫されていた。その他にも，図書館利用者が利用しやすい工夫が多く，例えば健康の書棚には，本に病名「認知症」「糖尿病」などを表示していた。また，学生向けにパスファインダーの作成や姉妹都市紹介等の設置など，参考にしたいところが数多くあった。

令和5年 11 月 9 日（木） 10:00～12:30
沖縄市立図書館

① 図書館運営について

・**【蔵書】** R4年度 28 万 5 千冊（移動図書館車 3 万冊含む）（郷土 4 万冊，児童 9 万 2 千冊）

・**【入館者数】** 17 万人（システム変更のため，2 か月間閉館）

⇒ 5 年間ごと更新（入札し，公平になるよう入れ替えをする）

② 電子書籍の利用方法，利用数

・ タイトル数‥8 千 7 百冊 ⇒ 購入費削減により，減っている。

・ 利用者 ⇒ カードを持っている方（図書館のパスワードで使用）

・ 登録者数 2千7百人 ＋ 中高校生

・【貸出】3 冊まで 【予約】3 冊まで

・ 利用状況 ⇒ R4 年度 1 万 2 千 5 百冊貸出，2 万 7 千冊閲覧。

・ 中高校生 → 学校図書館のカードに電子図書館のパスワードをひも付け。

③ YA 世代に向けた取組や学校図書館支援・子ども読書支援

・ 中高校生 ⇒ 学校図書館のバーコードに電子図書のパスワードをひも付けし，高校を卒業した時点で期限切れになるように設定している。（学校図書館のカードに紐づけしているため電子図書館は使用できるが，沖縄市立図書館で本を借りる場合は，新規に貸出カード作成が必要。）
・ ミニビブリオバトルを開催 ⇒ 各学校司書や学校，市の HP などの広報にて呼びかけ，参加者を募る。
R4 年度→高校生，R5 年度→中学生，毎年 4 名ほど参加あり。
・ 図書館主催のビブリオバトル以外にも，学校代表のビブリオバトルも実施している。

④ ボランティア活動について

・ 図書館見学（館内・利用案内）
・ 保育園などへ出張おはなし会
・ 読み聞かせ → おはなし会（月 1 回），対面朗読（月 2 回）
・ ボランティア研修（月 1 回） ※ 担当（年間通して）→読み聞かせの練習や発声練習をしている。

⑤ 危機管理

・ システム → 複合施設であり自家発電あり。バックアップをしている。
・ 防犯 → 複合施設であるため警備員がいるので，見回り等定期的に行っている。
※ 女性への声かけ事案もあるので、防犯カメラを設置している。

⑥ 移動図書館車（「ちえぞう君」「ミニちえぞう君」）の活用について

《ちえぞう君》
・ 4 人で担当している。→3 人で移動図書館へ。（司書と担当職員）
・ 24 カ所（1200 冊ほど搭載）
《ミニぞう君》
・ 1 人で担当。
・ 44カ所（幼稚園・保育園等）→月 1 回 セット貸出しをしている。
・ 希望があれば，読み聞かせなども行っている。

⑦ 障害者サービスについて

・ 依頼があった方に、郵送で送る。
・ 電子書籍も活用している。

⑧ まちなか図書館の取組について

・ 移転時に，基本計画を商店街の方たちへ図書館から提案し会議を行う。
・ 各店舗にあった本を選書してもらう。本は，図書館のリサイクル本を利用。
・ 地域の方と連携し，コラボ音楽会や商店街イベント（トークライブ），スタンプラリーを開催。
・ 公民館等が発行する広報（自治会だより）に「地域のまちづくり」に図書館も入る。
・ 「まちなか図書館」の参加店には，「まちなか図書館」の旗を掲げている。
・ 図書館でパンフレットを作成し活用。

⑨ ブックスタート（配布方法や本の選書について）

・ 平成 22 年度から開始
・ 妊婦さんに「妊婦さんのための図書館活用 BOOK」を配布。
・ ブックスタート（4−5か月児健診時）絵本+バックをプレゼント。
　→ 絵本は 5 冊の中から 1 冊選ぶ。（司書か選書）バックは地元の企業より寄贈。
・ ブックスタートプラス（9−10か月児健診時）絵本のみプレゼント。
・「赤ちゃんといっしょにはじまして絵本」「赤ちゃん絵本リスト」を配布。
・ 配布は，乳児健診が終わってから時間をかける。ボランティアの方が参加。
・ 受け取り期限は，1 歳半になるまで。受け取りに来ない場合は郵送する。全ての方に届くようにする。

⑩ 雑誌スポンサー制度について（広報の仕方など）

・ H29 年度より開始
・ 広報の仕方 → 広報・HP に申込方法を掲載
・ チラシを作成し，電話連絡などで各企業（薬局・銀行・書店・自動車等）へ連絡。
・ 企業に対して → 最新号の雑誌カバーに広告を掲載（年間）。レシートに企業の掲載や，チラシを置く。

＜所感＞

沖縄市立図書館でも，多くの事前質問に対し，丁寧に説明してくださった。たくさんの積極的な活動をされており，特に移動図書館車とまちなか図書館の取組，雑誌スポンサー制度が印象に残った。

移動図書館車は，「ちえぞう君」と「ミニぞう君」の2台で巡回している。「ちえぞう君」は，地域の公民館や学校（小学校・中学校・特別支援学校），施設等を巡回。「ミニぞう君」は，主に幼稚園・保育園・こども園を巡回。セットになったコンテナ（各テーマ別）で本を貸出，また巡回時に，絵本の読み聞かせ等も行っている。移動図書館車の書庫は，どの本のセットか分かりやすいように表示されており，時間をかけずに出発準備ができるように工夫されていた。

「まちなか図書館」の取組は，地域の商店街の方々と協力しイベントやスタンプラリーを行い，街の活性化に努力されているのが素晴らしいと感じた。店舗に「まちなか図書館」の旗が掲げてあるので，地域の方にとって図書館が身近に感じるのではないかと思う。私たちも，図書館から地域の方に働きかけ，地域の方と一緒に活動できるよう努力していきたいと思った。

雑誌スポンサー制度も活用していた。図書館から企業へ声をかけ，協力していただいていた。その姿勢が，雑誌スポンサーにとどまらず，ブックスタートの企業からのバック寄贈等につながっているのではないかと思う。ただ寄贈していただくのではなく，寄贈していただいた企業の宣伝を工夫されていた。（ブックスタートのバックには，企業名掲載）

沖縄県立図書館と沖縄市立図書館，両館とも，図書館を積極的にアピールしており，県民・市民すべての方に，本が届けられるようにしたいという思いを感じた。財源を確保することが難しいが，難しいから諦めるのではなく，色々な交付金や寄贈などを利用し，図書館の質を落とさないよう努力されていた。

また，行政や学校，施設や企業など，横の繋がりが広いと感じた。ただパンフレットやチラシ等を置くのではなく，それらに関する本も一緒に設置し，利用者の方が知りたいことを気軽に知ることが出来るように考えて掲示・設置を工夫していた。我々の図書館とは規模が違うことが前提ではあるが，細かなサービスや運営について大いに参考になることばかりで，大変勉強になった視察研修だった。自館の配架や掲示などの見直し改善，積極的な企画を心がけて，これからも利用者の方に気持ちよく利用していただけるよう，さらに工夫していきたいと思う。

最後になりますが，遠方の図書館へ視察研修に参加させていただき，大変感謝しております。今回学んだことを活かし，今後も努力してまいりたいと思います。ありがとうございました。